【新型コロナ　№１２１】

情報提供

那医発第３７６号Ｆ
令和３年３月３日

施設長　各位

那覇市医師会
会　　長　山城千秋
担当理事　宮城政剛

「新型コロナウイルス感染症」関連資料の提供について

平素より医師会事業へのご支援ご協力賜り感謝申し上げます。

那覇市保健所・仲宗根所長より「沖縄県疫学・統計解析委員会」からの報告事項をご提供いただきましたので下段にてご報告致します。

☆　問合せ先（那覇市医師会　事務局：上地・上原　／　電話　０９８－８６８－７５７９）

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

◎　沖縄県疫学・統計解析委員会から【現状】と【推定】と【解説】をいただきましたので、ご報告致します。（取扱注意でお願いいたします。）　【那覇市保健所　所長　仲宗根　正】

【現状】

沖縄県では、先週（2/22-28）の新規陽性者数は108人（前週97人）であり、わずかに増加に転じています。沖縄本島における実効再生産数(R)についても 0.97（95%CrI:0.80, 1.18)と前週の0.68より上昇してきています。

年齢別では、65歳以上の高齢者が19人（前週 22人）であり、全体に占める割合は18%と低下してきています。相対的に若者の感染が増えていることが懸念点であり、感染拡大初期の兆候とも考えられる状況にあります。

感染経路別では、病院・社会福祉施設関連 27人（25%）と最多です。続いて、家庭内 22人（20%）、飲食店 17 人（16%）と続きます。また、県内での流行が落ち着く一方で、渡航者 7人（6%）と増えてきました。

65歳以上の陽性者は19人で、感染経路別では、病院・社会福祉施設関連 13人（68%）と大半を占めます。この他、ゴルフやスポーツジムでの感染 3 人、家庭内 2 人でした。地域別では中部 4人（前週 9人）、南部 2人（前週 5人）、那覇市 13人（前週 7人）でした。

地域別では、北部 1人（前週 5人）、中部 27人（前週 19人）、南部 32人（前週 34人）、那覇市 43人（前週 38人）、八重山 1人（前週 0人）でした。この他、県外在住の渡航者が3人（前週 1人）でした。那覇空港（NAPP）での陽性確認はありませんでした。

なお、八重山での陽性例は渡航後の確認であるため、市中感染事例ではありません。八重山は1月29日を最後に、宮古は2月10日を最後に、市中感染を確認しておらず、域内での流行は収束したものと考えられます。

新規陽性者数が減少したことにより、入院患者数も減り続けています。3 月 1 日時点で 100人（前週末 146人）であり、このうち中等症以上の患者数は59人（前週末 70人）でした。

【推定】

沖縄県内は、小規模ながら持続流行の局面に入っています。加えて、県外からの持ち込み事例も増えてきており、とくに首都圏の流行状況によって、今後の県内における流行も変動するものと考えられます。

今週の新規の陽性者数は 110-150 人と推定します。入院患者数は、今週末までに 90-100 人となり、気管挿管等が行われる重症患者数は1-2人と見込まれます。

【解説】

３月１日より沖縄県独自に出されていた緊急事態宣言が解除されました。ただし、県内では持続して流行している地域があり、本島の中南部地域では終息には至っていません。

医療機関や高齢者施設における集団感染が続いています。加えて、渡航者の感染事例が増加し、確認される陽性者の若年化と歓楽街での感染事例が重なり、収束期というよりは流行の立ち上がりの様相を呈しています。

このまま再流行することがないように、県内における感染拡大の抑止と県外からの持ち込みの早期発見を行いながら、徐々に活動を再開させていくことが求められています。

まず、一般的な感染予防策については、すでに多くの県民に定着してきたと思います。すなわち、人が集まる場所ではマスクを着用し、公共のモノに触れたあとは手指衛生を心掛けること。入り口やトイレに消毒用アルコールを設置している店舗も標準的になってきたと思います。こうした地道な対策を普及させていくことが、今後も求められています。

次いで、飲食の場、とくにアルコールを伴う会食が集団感染の原因となっています。同居する家族以外と食事をするときは、できるだけ４人以下とし、長時間（２時間以上）の会食は避けてください。

ただし、陽性者数が増えている地域では、親しい仲間であっても会食は控えていただければと思います。一方、流行が収まっている宮古や八重山では、域外からの参加がなければ、会食による感染リスクは低いと考えられます。

いずれの状況でも、発熱や咳などの症状のある方が会食に参加しないことが大原則です。症状が軽快したあとも、少なくとも５日間は感染予防を心掛けていただく必要があり、とくに会食には参加しないようお願いします。

年度末は、卒業式などのイベントシーズンでもあります。参加者はマスクを着用し、手指衛生を心掛けてください。また、主催者は会場の換気を心掛けてください。このような対策をとることで、ほとんどのイベントは開催できると考えます。

流行地から沖縄へと帰省して、親族や友人宅に滞在することが感染を拡げるリスクになっています。流行状況によっては、帰省の延期を検討いただければと思いますが、少なくとも２週間前から感染予防を心掛け、１０日前から症状がないことを確認してください。

帰省前にＰＣＲ検査を受けておくことを推奨します。那覇空港でも検査が受けられるので活用してください（要予約）。なお、陰性であっても感染が否定されたわけではないため、帰省中も、発熱など風邪症状がないかを確認してください。

県外へと渡航する方は、渡航先でのマスク着用や手指衛生などを心掛けていただき、とくに同行者以外との会食機会はできるだけ減らすようにしてください。沖縄に戻ってから２週間は自己健康観察期間とし、周囲に感染させない配慮をお願いします。

以上、春の流行を抑えていくうえで重要なポイントについて概説しました。

昨年の経験からも、人の移動が活発になる春休みに感染が拡がる可能性は十分にあります。ただし、昨年とは異なり、感染対策のレベルは向上していますし、早期発見のための検査体制も拡充しています。

変異株という不確定要素はありますが、個人、家庭、事業所それぞれに対策をとっていただくことで、緊急事態宣言などを発出することなく、新年度が迎えられるものと考えます。

以上